



～おはなしと絵本を楽しむ～

第19号

2021年3月

おはなしグループ「パルランド」通信

3月は学年末。子どもたちの学校生活の区切りです。毎月うかがっている学校・園でのおはなし会も、一年の締めくくりとなります。おはなしを語るのは花の種を蒔くようなもの、芽が出て花がさくのは先のこと。心の糧となる豊かなことばの種をまいて、子どもたちの心に届けてあげること。

4月になると新しいスタート！新しい子どもたちとの出会いも加わり、こちらもフレッシュな気持ちになります。どんなときも、子どもたちとともに楽しむことを大切にまたひとつひとつ積み重ねていきたいと思えます。



おすすめのおはなし

食わず女房

端午の節句のいわれ話にもなっているよく知られた日本の昔話。たくさんのお話や絵本があります。

飯を食わん、茶も飲まんよう働く嫁が欲しいというけちな男の前に現れた美しい女。実はその正体は恐ろしい鬼婆。

頭のとっぺんにすり鉢のような大きな口があくところでは、子どもたちは一瞬息を飲みます。子どもたちはこういう怖い話が大好きです。

福音館の絵本「くわすによぼう」も迫力ある日本画で、素晴らしい。

語りできくもよし、絵本で読むもよし！



稲田和子・筒井悦子
子どもに語る日本の昔話3
こぐま社



稲田和子再話
赤羽末吉絵
福音館書店



おすすめの絵本

ロバのシルベスターとまほうのこいし



ロバのシルベスターは、小石を集めるのが大好き。ある日、願いがかなう赤い小石を見つける。けれども、家に帰る途中、おなかをすかせたライオンに会い、とっさに岩になりたいと願ってしまう。

岩になったシルベスターは小石を拾えない。だれかが小石を拾って願ってくれるしか、もどくことができない。絶体絶命のピンチ。

お父さんお母さんは、戻らないシルベスターを探して岩のところまで来るが、まさか岩が自分たちの子どもだとは知る由もなく…

果たしてシルベスターは無事に元のロバに戻れるのでしょうか？



ウィリアム・スタイクさく
せたていじやく
評論社



出張おはなし会（学校園ほか）の記録

12月～2月実施

「赤ずきん」「おしりのくびはなぜながい」
「おにとあんころもち」「かさじぞう」「北風に会いに行った少年」「仙人のおしえ」「だめといわれてひっこむな」「貧乏神」「雌牛のブーコー」
※緊急事態宣言で中止もあり



普段は子どもたちに語っていますが、時々大人を対象として語ることもあります。

11月にイベントで「三枚のお札」を、12月に「神様の歯車」を語りました。大人の方にもおはなしを楽しんでいただける機会をもっと持てたいなと思います。

ゆったりと広がるイメージの世界、豊かなことばはみんなのこころをあったかくしてくれると思っています。



～想像の翼を大きく広げて～

耳から聞くおはなしの楽しさを多くの人に届けます。興味のある方はぜひ一度聴いてみてください。また、ご希望の場所に出かけて、おはなしを語ることも可能です。お気軽にご相談ください。

【おはなし会のお問い合わせ】
西脇市図書館（電話0795-23-5991）
パルランド 丸山（電話090-8930-0921）



パルランド通信は「パルランド」が発行しています。

図書館大きな子のおはなし会

毎月第1土曜日 午前10時30分～
(30分程度)

おはなしのへやにて

内容：ストーリーテリングと絵本など
※予約はいりません。お気軽にご参加ください
ただし図書館が休館のときはありません

